

# 廃棄される服を再利用するインテリアの研究

## Research into interior design that reuses discarded clothing

難波 佑成  
指導教員 坂元 愛史

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 インテリア・家具研究室

衣類の大量廃棄問題を解決するために、消費者が個人単位で手軽に取り組むことができる手段を用いてインテリアエレメントとしての再利用を図る  
キーワード：家具、洋服

### 1. 研究目的

私はおしゃれになりたいと思い服に興味を寄せ、服を着ることが好きになりました。デニムのポケットの意味やシングルステッチのことなどの歴史、背景を知ることができ、そこが服の魅力だと感じました。しかしファッションの世界には華やかな一面の裏側で、現代においては服の大量廃棄が起こっているという負の一面があることを知りました。そこでこの問題を少しでも解決して、よりよい状況を作り出す手段を探したいと考えております。

### 2. 調査内容

一年で供給される衣服は 81.9 万 t。その 9 割に当たる 78.7 万 t が一年で手放される。手放された衣服は 2/3 は廃業。図 1 より。1 日あたりに焼却・埋め立てされる衣服の総量（平均）企業が取り組みを実施し、サービスもあるおかげで全体の衣類のうち 34% は循環している。<sup>[1]</sup> 服の大量廃棄の背景には、海外輸入品の増加、小売価格の減少により多くの服が流通する状況が生まれたことがある。<sup>[2]</sup> 図 2、図 3 より。そういった市場への過剰な供給のほかに、服のリサイクルの難しさ、ファストファッションの誕

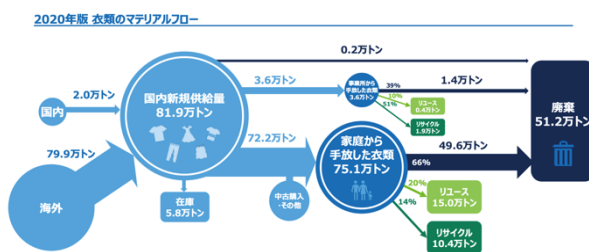


図 1\_2020 年度 衣類のマテリアルフロー

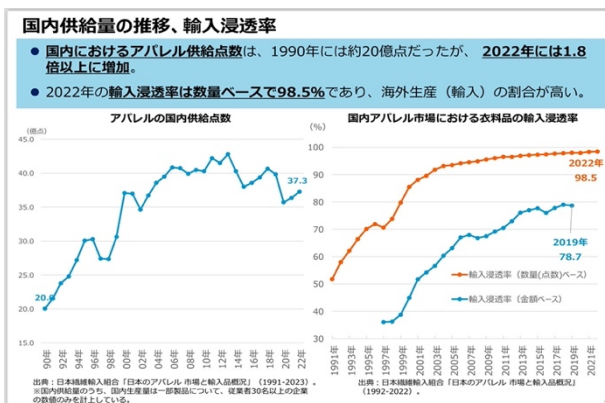


図 2\_衣服の国内供給量と輸入浸透率

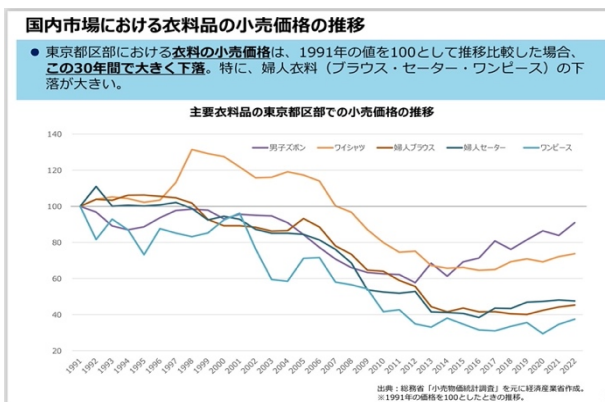


図 3\_衣服の国内市場における小売価格の推移

生、消費者の価値観の変化が大量廃棄に繋がっ

ている。衣類の約 6 割が処分埋め立てをされており、まだまだ循環の仕組みが十分とはいえない。

### 3. コンセプト

服の循環の多くは「服から服」としての再利用だが、私は「服からインテリアエレメント」という異なるものへ、個人の生活の中で再構成することを提案する。図 4 服を循環させる手法としては再販業者への販売、企業の回収、自治体による回収などが主として存在するが、そこには持つて行く手間や他者に会う心的なハードルも存在しており、一定数の実行できない人もいと考えられる。そこで個人レベルで気軽に実行できる方法として、服をクッションの代用品としてインテリアエレメントに再利用できる仕組みを検討する。

### 4. アイデア検証

1 つ目に自宅ソファのクッションの綿を抜いて服に置き換える検証。T シャツ、ニット、ダウンそれぞれを中に入れて感触をリストアップし、メリットとデメリット記載。2 つ目に服を入れやすい形の検証。木材を使用し 1/1 で製作。横から服を入れる横穴タイプ、下から服を入れ込む正円タイプ、服を台座に置き上から囲い込む装着タイプの 3 つである。これらを比較した結果、最も入れやすかった“下から服を入れ込む正円タイプ”をさらに大中小の 3 つの違う大きさを検討し、クッション台部の大きさを採用。3 つ目にスツールの試作 1/1 の大きさを簡易的なスツールを製作。”服を入れやすい形の検証”の次の段階である座り心地の研究。実際の大きさの確認、アンケートの実施のために製作。) 1/1 の大きさを製作。育英祭の展示用に製作。実際の大きさのため、アンケートをとることが可能。図 5 より。

### 5. 今後の展開

家具としての表現力や構造への理解が不十分で、接合部についてはまだまだ検討と構想が必要と思われる。そこで完成した 1/1 のスツールについて文化祭発表でアンケートを取り、座り心地や構造のブラッシュアップを行ったうえで最終提案品を計画し、製作を行っていきたい。

### 参考文献

- [1] [https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/) 経済産業省  
2024 年 05 月 24 日 01:48
- [2] 出典：「繊維産業の課題と経済産業省の取組」令和 2 年 1 月 17 日 経済産業省製造産業局生活製品課



図 4\_服をインテリアエレメントに変換



図 5\_ 1/1 の大きさを簡易的なスツール